※令和４年度以降入学生用

学校番号	１０１３

令和８年度　美術科

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	１単位	年次	１年後期
使用教科書	美術１　（光村図書）						
副教材等	ワークプリント						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・視て感じる、感じて創ることを基本に踏まえるべき手段を経て徐々に個のものとなっていく過程を実感します。
・一人ひとり、思いや見方、感じ方が違います。表現形式の特性や形体・色彩・構成などについて着目して、感じ方や見方、表現を深めていきましょう。様々な表現や感じたことを共有すると、更に広がったり深まったりします。

２　学習の到達目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。
（１）対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
（２）造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
（３）主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	表現の基礎となる技術や、デザインの考え方を習得し、様々な道具の扱いについても学び、適切な課題に適切な技術を用いることができるようにする。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表現できるようにする。	テーマや課題物について、イメージや考えを膨らませ、表現できる。感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練り、自己の価値観を高めて美術作品などの表現の工夫や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

※令和４年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
後期	イニシャルデザイン	・自分をマインドマップなど、ワークシートを利用して振り返る。 ・前期に使用した画材を組み合わせた表現方法を学ぶ。 ・学習した内容をもとに、自分のイニシャルのデザイン作品を制作する。 ・完成作品をプレゼンテーションする。	a: 主題にあった表現を工夫している。造形の要素の働きを理解している。 造形的なデザインの要素を基に、形や色彩などの働きを考えながら構想を練り、創造的に表している。 b:条件や素材などから、形や色彩などの働きを考えて表現の構想を練っている。 絵具などの画材、用具の特性を生かし、表現方法を工夫して表現している。 c:主体的にデザインの創造的な諸活動に取り組もうとしている。	作品	・作品 ・アイディアスケッチ ・ワークシート	・作品レポート ・プレゼンテーション
	風景画	・風景画を鑑賞する。 ・自分が撮影した画像の中から、心に残った風景の画像を準備する。 ・前期で学習した透視図法の手法や固形透明水彩絵の具の特性を生かして、準備した画像をもとに風景画を描く。 ・振り返りをまとめる	a: 造形の要素の働きを理解して、モチーフの造形的な特徴などを的確に捉え、道具の特性を活かして創造的に表している。 b:作品と画像を見比べながら、道具の特性や色彩の効果を考えて、心に残る風景の表現の構想を練っている。 c:主体的に着彩の表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている。	風景画作品	・風景画作品 ・作品レポート	・作品レポート ・振り返り用紙

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度